

# コミュニティ・スクールだより



第21号

名張市教育委員会事務局発行  
令和3（2021）年7月20日

## 文部科学省 コミュニティ・スクールの 在り方等に関する検討会議 Part.1

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）は平成29年の法改正によって設置が努力義務となり、全国的な設置数は増加傾向にあります。保護者や地域住民の学校運営への参画や地域と学校が連携・協働した取組が行われるなどの一定の成果が出てきています。一方で地域と学校の連携・協働体制の在り方や進捗に、学校間や学校種の差異があることなどが課題となっています。「コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議」は、法改正から5年を迎えることから、今後の学校運営協議会の活動の充実に向け、文部科学省が外部有識者の協力を得て検討を行うために設置したものです。

研修資料等に活用可

検討事項として、

- (1) コミュニティ・スクールの在り方について
- (2) コミュニティ・スクールの設置促進、活動の充実について
- (3) その他、地域と学校の連携・協働に関することについて

の3つがあげられ、これまでに3回の検討会が開かれ検討が重ねられ、コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議中間まとめ（骨子案）が検討されました。

([https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt\\_chisui02-000016237\\_8.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_chisui02-000016237_8.pdf))

その中間まとめの中で、**コミュニティ・スクールの推進の必要性やこれからのコミュニティ・スクールの在り方等**について、今後の検討事項が次のようにまとめられています。

### （コミュニティ・スクールの意義、役割） 【一部抜粋】

○ コロナ禍だからこそ見えてきた学校の本質もある。校長や教職員だけでなく、保護者や地域住民が参画し、目標の共有・その目標達成のための対話・協働、そして評価する令和型の新たな学校改革が必要である。

- 災害やコロナ禍のような困難な状況においても保護者や地域住民の理解と協力を得て、混乱なく安定した学校経営を行うことができる。また、生徒指導上の問題の根底には、児童生徒のコミュニケーション能力の低下と直接体験の不足があり、家庭や地域の支援を得て補っていくことが必要である。
- 震災復興の中でコミュニティ・スクールは非常に重要な役割を果たした。防災活動に地域との協働は確実に欠かせないものであり、コミュニティ・スクールが重要な役割を果たす。
- 次代を担う子供たちに必要な資質・能力を育むためには、コミュニティ・スクールを活かした学校運営が重要。また、コミュニティ・スクールの機能を活用することで、地域の目標を共有し、特色ある教育課程を再編し、地域の人的、物的資源を活用した教育活動を展開することができる。
- コミュニティ・スクールや地域学校協働活動は、学校改革のツールとして、全ての学校や校長に求められる。【続きは、次号に掲載予定】

## 検討会議の中で、名張市が事例発表！

### 「名張市における地域運営組織と コミュニティ・スクールの連携について」



全国に発信!!  
高評価を  
いただきました。

発表資料等

### 文科省にHP掲載

※議事録については、後日、掲載予定

〈アクセス方法〉

文部科学省→政策・審議会→審議会情報→調査研究協力者会議等（初等中等教育）→コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議

([https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt\\_chisui02-000016237\\_7.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_chisui02-000016237_7.pdf))

### 【委員の感想・意見等より】

- 今日の地域運営組織についての事例発表、大変勉強になりました。私自身こういう名張市さんのようなすばらしい取組があるということを知ることができて、本当に良かったなと思います。
- 地域運営組織に関して、発表いただきましたように、まさに地域の基盤づくり、コミュニティの形成に非常に重要な位置づけになるかと思っております。また、その活動に関しましては、名張市さんからも発表がありましたように、地域学校協働活動とリンクをするようなものと考えておりますし、それをコミュニティ・スクールと連携して進めるといって、非常に重要な取組になるかと思っております。